



5:27 この後、イエスは出て行き、収税所にすわっているレビという取税人に目を留めて、「わたしについて来なさい。」と言われた。

5:28 するとレビは、何もかも捨て、立ち上がってイエスに従った。

5:29 そこでレビは、自分の家でイエスのために大ぶるまいをしたが、取税人たちや、ほかに大ぜいの人たちが食卓に着いていた。

5:30 すると、パリサイ人やその派の律法学者たちが、イエスの弟子たちに向かって、つぶやいて言った。「なぜ、あなたがたは、取税人や罪人どもといっしょに飲み食いするのですか。」

5:31 そこで、イエスは答えて言われた。「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。」

5:32 わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招いて、悔い改めさせるために来たのです。」

5:33 彼らはイエスに言った。「ヨハネの弟子たちは、よく断食をしており、祈りもしています。また、パリサイ人の弟子たちも同じなのに、あなたの弟子たちは食べたり飲んだりしています。」

5:34 イエスは彼らに言われた。「花婿がいっしょにいるのに、花婿につき添う友だちに断食させることが、あなたがたにできますか。」

5:35 しかし、やがてその時が来て、花婿が取り去られたら、その日には彼らは断食します。」

5:36 イエスはまた一つのたとえを彼らに話された。「だれも、新しい着物から布切れを引き裂いて、古い着物に継ぎをするようなこ

とはしません。そんなことをすれば、その新しい着物を裂くことになるし、また新しいのを引き裂いた継ぎ切れも、古い物には合わないのです。

5:37 また、だれも新しいぶどう酒を古い皮袋に入れるようなことはしません。そんなことをすれば、新しいぶどう酒は皮袋を張り裂き、ぶどう酒は流れ出て、皮袋もだめになってしまいます。

5:38 新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れなければなりません。

5:39 また、だれでも古いぶどう酒を飲んでから、新しい物を望みはしません。『古い物は良い。』と言うのです。」

マタイを弟子として召されたイエス様に対して、さっそく批判が出ました。パリサイ人や律法学者は、自分たちの権威が重要でしたから、罪人と自分を区別したがるのでした。一方イエス様は、罪びとを区別するのが目的ではなく、救うことが目的です。私たちも、自分のすばらしさを表すより、人のために何が必要かを考えましょう。

イエス様は律法と福音の違いを明らかにしました。福音は花婿なるイエス様とともにいられることであり、またぶどう酒のように楽しさでもあります。それは律法とは相容れないものです。喜びと感謝によって行動するのです。正しい行いは一緒ですが、喜びと恵みによって、行動しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

